

旧伊藤別邸の燻蒸作業を見学してきました。施工者は栃木の（株）茅葺屋根保存協会という業者さんです。スーパーケムラーという炭焼き窯のようなものから発生した煙をフレキシブルダクトで屋内に誘導、天井点検口から直接燻蒸する方法で作業するとの説明でした。目的は防腐・防菌・防かびのため(防虫効果もあるのですが、元気な虫は一時避難してすぐ戻って来てしまうそうです)で、棟単位の作業となるので午後までかかるとのことでした。燃料はナラ・クヌギ・サクラを使用。茂木館長によると、燻蒸は年に 1-2 回行っている定期作業だそうです。炉を持たない天井張りの茅葺（海浜地区らしいヨシ葺きとのこと）屋敷なので、その効果は大きいのだらうと思いました。

【旧伊藤博文金沢別邸】施設概要

明治 31 年（1898）創建の茅葺寄棟屋根の田舎風海浜別荘建築で、現存する数少ない建築遺構である。明治時代、富岡などの金沢近辺は東京近郊の海浜別荘地として注目されたが、別荘地文化はその後、陸路の展開と共に大磯や葉山などにシフトして行く。平成 18 年（2006）横浜市指定有形文化財に指定されたが、翌年行った解体調査により老朽化が著しいことが判明、すぐさま創建時の姿に復元することが決定した経緯を持つ。平成 21 年（2009）庭園と併せて竣工、開館した。



只今、燻蒸作業中！



館長の茂木さんと車上のスーパーケムラー



作業で真っ黒になったフレキシブルダクト



副産物である木酢液が入ったバケツ